

<b>授業科目</b>  がん看護学特論Ⅲ	<b>科目概要・形式</b>  2単位30時間(15コマ) 講義科目	<b>配当年次</b>  博士前期1年次 前期開講	<b>オンライン参加</b>  可・不可 「下記6, 7参照」
<b>科目責任者</b>	鳴井 ひろみ		
<b>担当者</b>	鳴井 ひろみ、棟方 正樹 (非常勤)、鎌滝 章央 (非常勤)、松坂 方士 (非常勤)、伊東 健 (非常勤)、真里谷 靖 (非常勤)、長谷川 善枝 (非常勤)、北澤 淳一 (非常勤)		
<b>1. 科目のねらい・目標</b>			
<ねらい> がんの分子生物学、遺伝学、がんゲノム医療を含む病態生理学全般について学び、最新の診断、治療について学ぶことで、高度な臨床判断とがん看護実践に必要な専門知識を修得する。 <目標> 1) がんの要因・発生・病態生理について、分子生物学、免疫学、遺伝学、疫学の観点から理解し、知識を深めることができる。 2) がん組織の病理学的・臨床的特徴と症状との関連および診断と治療について理解し、高度な看護実践を展開する上での基礎的知識を修得する。			
<b>2. 授業計画・内容</b>			
1回：がん医療の動向 (鳴井) 1) がん医療の動向と高度実践看護師の役割 2回：がんの分子生物学1) がんの形態・分類 (鎌滝) 3回：がんの分子生物学2) がんの発生・原因 (鎌滝) 4回：がんの分子生物学3) がんの進展と転移 がん遺伝子とがん抑制遺伝子 (鎌滝) 5回：がんの分子生物学4) がんゲノム医療 (北澤) 6回：がんと免疫1) 腫瘍に対する免疫応答 (伊東) 7回：がんと免疫2) がんによる免疫抑制 (伊東) 8回：腫瘍遺伝学1) 腫瘍遺伝学 (長谷川) 9回：腫瘍遺伝学2) 遺伝子診断 (長谷川) 10回：がんの臨床医学1) 診断(病理診断、画像診断)と治療 (棟方) 11回：がんの臨床医学2) 集学的治療 (棟方) 12回：がんと疫学1) がんの疫学 (松坂) 13回：がんと疫学2) 発生要因とがん予防医療の動向と課題 (松坂) 14回：放射線被曝と健康への影響 (真里谷) 15回：プレゼンテーションと討議 (鳴井) 2～14回の学習内容の中から関心のある内容を選び、がん看護におけるがんの要因・発生・病態生理に関する知識の重要性、看護実践への適用について検討して発表し討議する。			
<b>3. 教科書、参考書</b>			
(教科書) 窪田宜夫著：新版 放射線生物学, 医療科学社, 2015年 (参考書) 日本臨床腫瘍学会編：新臨床腫瘍学, 改訂第7版, 南江堂, 2024年 土居健太郎著：系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学, 第3版, 医学書院, 2023年 他、講義の中で適宜紹介する。			
<b>4. 成績評価方法</b>			
授業への取り組み状況 70%、プレゼンテーション・質疑応答 30%で総合的に評価する。			

#### 5. 受講要件

CNS（専門看護師）コースがん看護の学生は必修

#### 6. 社会人学生に対する配慮

オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。オンライン授業の場合はリモートでの同時双方向型授業を行う。

#### 7. その他

- ・講義内容について事前に学習して臨むこと。
- ・状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。
- ・オンデマンドの実施不可